

風土記の丘の花だより¹⁸⁹

今、そしてこれから見られる植物(2023年6月10日)

梅雨入りしたと思ったら、先週の大雨、お隣の海南市などでは大きな被害がでました。お見舞い申し上げます。風土記ではそんな大変な出来事を知ってか知らずか、アジサイやクチナシといった、雨の似合う花も咲いています。毎年紹介していますが、キササゲの花がきれいに咲いています。竪



穴住居の東側の道沿いです。キササゲは「木のようなササゲ」という意味で、ササゲとは、細長いさやのお豆の一種です。でも、もちろんマメの仲間ではありません。実がキササゲに似てとても細長いのでそんな名前になったのです。去年の茶色い実がたくさんぶら下がっています。キササゲの近くで白い花をいっぱい咲かせたつる植物がありますが、それはテイカカズラです。でも少しピークが過ぎていますね。



梅雨の合間の青空に、白いクリの花が映えます。生臭くも感じる、独特の香りが漂っています。今年は万葉植物園の中央あたりのクリの木の枝が垂れていて、ちょうど大人の目線あたりに花を咲かせてくれていますので、間近で花を観察できますよ。写真は谷山家の南の斜面の大きなクリの木で撮影したものです。白く細長い雄花はよく目立ちますが、栗の実になる雌花はその根元にあって、見つけることは簡単ではありません。



足下にたくさん咲いている黄色い花はコモチマンネングサです。漢字で書くと「子持ち万年草」です。右の写真のように葉の付け根に小さな芽を作り、それがこぼれて増えます。ヤマノイモの「むかご」のようなものです。それ



で「子持ち」は分かりましたが、「万年」とはなんぞや？それは、この植物はまるで多肉植物みたいに水分が多く、標本にしようとしても、なかなか乾燥せず、いつまでも生き続けるのです。



秋の七草の一つキキョウが早々と咲きました。といっても、万葉植物園のキキョウは毎年今頃咲き始めます。キキョウはキキョウ科の植物です。(当たり前)花を鑑賞することはもちろんですが、根は昔から漢方薬に使われています。英語では Balloon flower というそうで、直訳すると「風船みたいな花」ということになります。この花をみて、どこが風船かというと、開いた花ではなく、つぼみなのです。言われてみれば「なるほど」と頷けますね。 松下

